

基本方針

持続可能な地域づくりの将来像（ビジョン）

資料館を核とした尾小屋鉱山跡周辺の整備により、下記の持続可能な地域づくりの将来像を描きます。

① 新たな訪問価値の創出による地域活性化

- ・ 鉱山遺構や自然環境を観光資源化し、交流人口の増加と雇用の創出を促進。
- ・ 近隣の観光地や宿泊施設との連携により、広域的な周遊促進と滞在時間の延長が期待される。

② 地域を支える関係人口の拡大

- ・ 地域内外の人々が継続的に関われる仕組みづくりで、多様な担い手を呼び込み、地域支援基盤を拡充。
- ・ 企業・大学などの連携により、新しい知見や技術が流入し、多様な活動が展開。

③ 市民の学習機会の拡充

- ・ 歴史・文化・防災・環境といった多様な学びの場が広がり、幅広い世代の教育機会が向上する。
- ・ 地域住民の歴史や文化への理解が深まり、地域への誇りと愛着が醸成される

④ 環境保全への貢献

- ・ 鉱山跡地の活用や持続可能な観光を通じ、自然環境の保全が進む。
- ・ エコツーリズムや環境教育により、訪問者の意識向上と次世代への関心拡大を図る。

ターゲットイメージ

ファミリー層（親子連れ）



ニーズ

- ・ 休日に家族で楽しめるワクワク感のある体験を求めている
- ・ レジャーで楽しみながら、子どもの学びにつながるエデュテインメント
- ・ 科学・自然・歴史を体験的に学べるコンテンツ
- ・ 移動・施設の利便性が整っていることが望ましい

アウトドア＆冒険志向の若年層



ニーズ

- ・ 自然環境をアクティブに楽しめる冒険感のある体験を求めている
- ・ 身体を動かすアクティビティへの関心が高い
- ・ SNS で映えるダイナミックな景観や、非日常感のある体験に惹かれる

アート・サステナブルへの

感度の高い旅行者



ニーズ

- ・ 産業遺産を活かしたアート・建築・デザイン
- ・ 「過去・現在・未来」をつなぐインスタレーションやアート作品
- ・ サステナブルな食・宿泊体験がセットとなった滞在体験
- ・ 環境問題や文化的ストーリーを学びながら、地域と関わる体験

学校・教育機関

（小中高・大学・専門学校）



ニーズ

- ・ 教育カリキュラムと連携可能なプログラムや、フィールドワークとしての価値
- ・ 専門家の解説・講座付き体験があるとより導入しやすい
- ・ 大学や研究機関との連携による特別プログラムが展開できる場としてのポテンシャルを求める

コンセプト

自然を未来に生きる力へ変えるマインパーク

— 時の鼓動を感じる「技術」と「冒険」の地 OGOYA

「技術」

尾小屋鉱山跡周辺に残る技術の痕跡は、自然と向き合い、その力を活かしながら困難を乗り越え、人の暮らしに役立ててきた先人たちの知恵、すなわち「生きる力」そのものです。

「冒険」

過去の物語を纏う尾小屋のセピアブラックの情景すべてを学びのフィールドとして、自らの足で探索し、手で触れ、五感で探求し、試行錯誤しながら先人の記憶を掘り起こす体験。

＜尾小屋鉱山跡周辺の地域資源の本質的価値＞

自然と人間の間を探究し、生きる力を育む場

『人間はどのように自然と共存し、その恵みを活かしてきたのか』という根源的な問いを訪れる人々に生み出す

＜自然資源＞
地球の営みが生んだ
“ジオヒストリー”

火山灰の堆積や大陸の分離など、多様な地殻変動を経て生まれた地層や地形、そこに眠る豊富な鉱物資源

自然
WILD

技術
TECHNOLOGY

人間の知恵
WISDOM

生きる力

鉱山技術をはじめとする
自然と共存し、その恵みを活かす技

＜文化資源＞
鉱山開発の歴史を
今に伝える数々の遺構

鉱物資源を活かすため、自然と向き合い、採掘から製錬に至るまで知恵を重ねて築いてきた鉱山開発の歴史

基本方針

【感じる視点】

地球の壮大さを "感じる"

【知る視点】

鉱山に宿る物語を "知る"

【楽しむ視点】

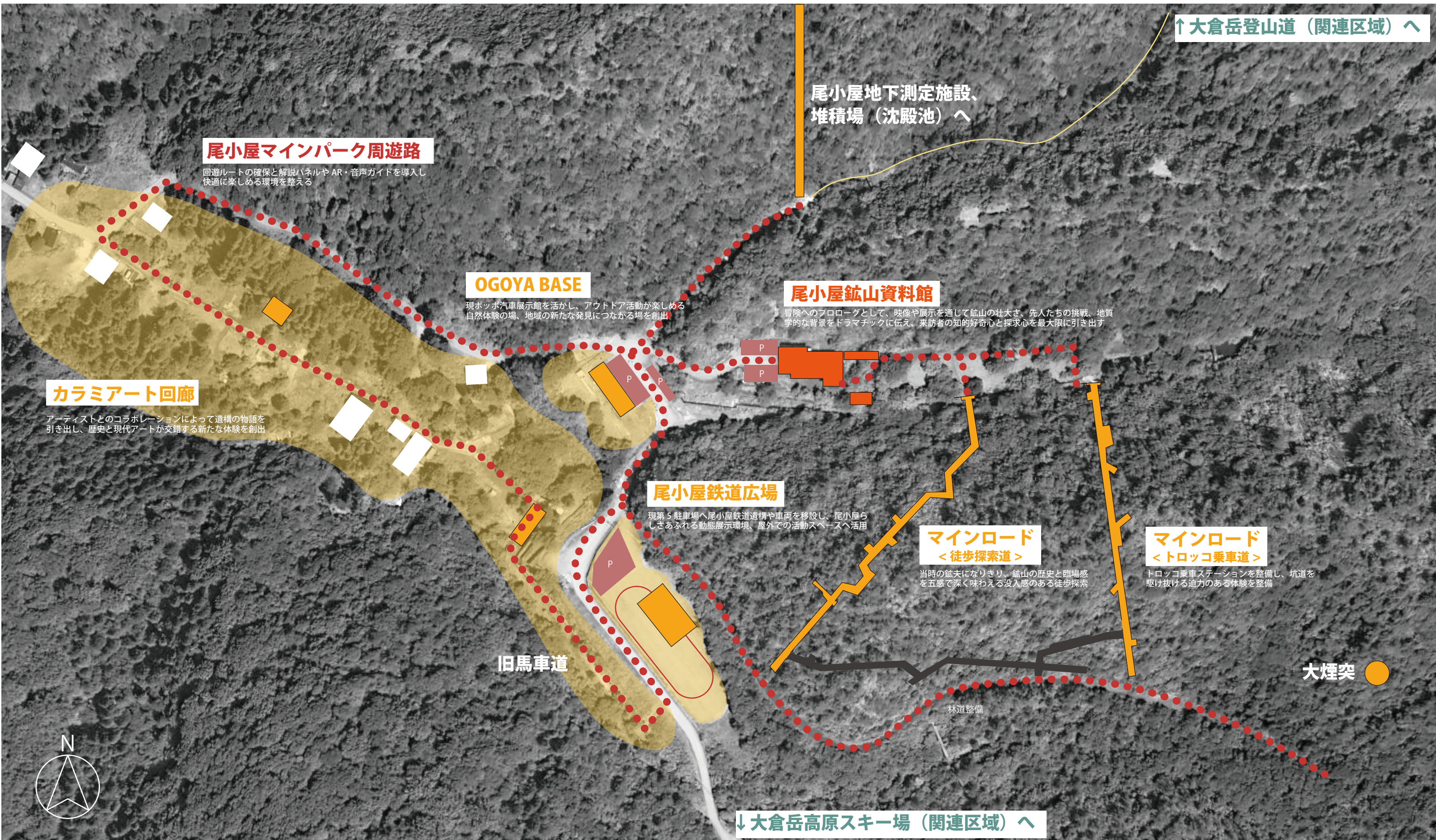
自然を活かす技を "楽しむ"

尾小屋鉱山跡周辺は、海底火山や大陸の分離などによって育まれた“ジオヒストリー”の壮大さを背景に持ち、雄大な山麓や里山、そして遠く日本海まで見渡せる地形が訪れた人々を包み込みます。ここでは、日常からは得られないスケールを五感で体感し、自然と人間の関係性を再考する場を生み出します。整備の中心となる資料館については、映像や模型等を活用し、地球の誕生から尾小屋鉱山の成り立ちを感覚的に理解できる空間の整備などを想定しています。

尾小屋鉱山の馬車道やカラミ遺構、マインロードなどは、一見すると“人々が去り、時の止まった遺構”のように映ります。しかし、かつて人々は過酷な山間で銅の採掘・製錬を行い、多様な技術革新と工夫を凝らしていました。これらの遺構がもつストーリーを再現し、「ここで何が起こったのか」その発展と苦闘の足跡を訪問者が深く理解できるようにします。資料館については、尾小屋における鉱山開発の歴史や鉱物資源の活用技術などが、資料展示や映像解説等を通じて理解できるよう整備することを想定しています。

雄大な自然と想像をかきたてる遺構空間とが交錯する尾小屋鉱山跡周辺は、本能的な“生き抜く力”を鍛えるうえで最適なフィールドです。自然界に鉱物資源を見だし、「生きる力」へと変えることで文明を築いてきた先人の営みを実際に体を使って追体験し、「自身の知恵と工夫で困難を突破する」楽しさを感じてもらうとともに、自然と向き合う科学の本質にせまります。資料館においては、鉱物などの自然の資源を活かしてきた先人たちの技術を追体験できるスペース等の整備を想定しています。

「(仮称) 尾小屋マインパーク」全体イメージ



【基本的な整備事項】

基礎的な改修整備—誰もが安心して利用できる資料館へ



上水道の確保とともに、老朽化した資料館の耐震性・断熱性を強化し、メンテナンスが容易で、かつ災害にも強い施設へと改修します。積雪対策や非常用電源の導入により、安全性と機能性を向上。また、エレベーターやスロープの設置、多目的トイレの増設など、バリアフリー化を推進し、誰もが快適に利用できる環境を整備。訪れるすべての人にとって、安心・快適な歴史学習と体験の拠点を目指します。

施策： 06 資料館の防災機能向上
07 上水道の確保
08 バリアフリー化改修

学習・研究拠点としての整備—資源と環境を考える場の創出



学習・研究の拠点とし、学校・研究者・一般市民が交流しながら資源や環境について学ぶ場を整備します。レクチャールームを新設し、ワークショップやセミナーを開催できる多目的スペースを確保。さらに、最新研究紹介ブースでは、金沢大学の微弱放射能測定など最先端の研究や、鉱山管理・環境対策の取り組みを紹介します。資源循環や環境問題について考える機会として、セミナーやワークショップを実施。たとえば、産業遺構と循環型社会の関係やカラミ再利用の事例を紹介し、専門家を招いた講演を行うなど、世代や立場を超えた学びの場を提供します。

施策： 09 レクチャールーム
10 最新研究紹介ブース
11 未来の資源循環プログラム

【感じる視点】 地球の壮大さを感じる

ダイナミックかつ深遠なる地球の営みを体感する—ジオヒストリーを学ぶ展示と体験



尾小屋の地形や鉱床は、海底火山の噴火や大陸移動など、長い地球の歴史が刻まれたダイナミックな地球の営みの証です。この壮大なスケールを視覚・触覚・聴覚を通じて体感できる環境を整備し、訪問者が“地球の深遠なる時間”を直感的に理解できる場を創出します。海底火山や地殻変動の歴史を映像で学べる「ジオヒストリーシアター」を設置し、実物の岩石や地質ブロックを展示。大倉岳や観音下の石切場を巡る周遊プログラムも提供し、訪問者自身が鉱物を採集しながら学べる体験型コンテンツを充実させます。尾小屋の地層が語る壮大な物語を、より身近に感じられる空間を実現します。

施策： 12 ジオヒストリーシアターの設置
13 ジオヒストリー周遊プログラム

石の“内なる美”を見せる—鉱物の魅力を発見する体験型展示



鉱物の輝きや結晶構造の美しさなど、石や鉱物がもつ独特の魅力を引き出す展示や体験を整備します。透過照明やスポットライトを活用した展示空間を設けるほか、AR技術を活用し、鉱物の成分や歴史的エピソードを学べる仕組みを導入します。さらに、研磨や裁断した石を顕微鏡で観察できるラボを設置。訪問者自身が鉱物を加工し、その美しさを発見できる体験プログラムを提供し、小さな石を研磨し、オリジナル標本として持ち帰ることができる場も設けます。尾小屋の鉱物資源を“宝の山”として実感できる空間を創出します。

施策： 14 鉱物ライトアップ展示
15 AR 鉱物図鑑
16 鉱物観察&加工ラボの設置
17 “わたしだけの鉱物標本づくり”プログラム

【知る視点】 鉱山に宿る物語を知る

資料館が保有する資料の有効活用—歴史を伝え、貴重な資料を未来へ



資料館に保管される鉱山関連の貴重な資料を適切に保存しながら、より多くの人々に活用される環境を整備します。湿度・温度管理が可能な収蔵庫を設置し、防火・防水対策を強化して資料の長期保存を実現。さらに、鉱山労働者の生活をリアルに再現した展示や、鉱山経営に関する貴重なアーカイブを公開し、歴史の理解を深めます。企画展示室の設置・拡張により、季節やテーマごとに変化する展示を提供し、訪問者に新たな発見と学びの場を提供します。

施策： 18 収蔵庫の設置
19 リアル再現展示
20 アーカイブの提供
21 企画展示室の設置

石による技術進化を追体験する—鉱物が支えた人類の発展と未来



石や鉱物は、人類の道具の進化からエネルギー利用、ハイテク産業の発展に至るまで、技術革新を支えてきました。鉱物と科学の関係を軸に、鉱山技術の挑戦や人類の進化を掘り下げ、尾小屋鉱山の歴史をその流れの中に位置づけた展示を整備します。鉱石による技術進化を図解する展示を設け、鉱物が過去・現在・未来にどのように貢献してきたのかを表現。鉱山経営の挑戦や技術革新をパネルや映像で紹介するほか、坑道模型を設置して鉱山のスケールを体感できる空間を創出します。また、銅の製錬過程をCGや投影マッピングで再現し、炎や熱風の演出を通じて臨場感を高めます。

施策： 22 石による技術進化をテーマとした展示コーナー
23 尾小屋鉱山の歩み解説展示
24 銅ができるまで解説展示

【楽しむ視点】 自然を活かす技を楽しむ

自然と科学をつなぐ“工夫”の力を体感する



自然の資源を活かし、技術と知恵を実践的に学ぶ体験型のスペースを整備します。火起こしや道具づくりなどの実習を通じて、人類が培ってきた技術を追体験し、自らの手で工夫する楽しさを発見できる環境を提供します。ワークショップスペースには小型炉などを備え、安全対策を施した実習環境を整備。また、銅の多面性を学ぶワークショップでは、銅アクセサリーの製作や導電性実験を通じ、鉱物資源が現代社会や未来の技術にどのように活かされているかを体験します。ものづくりを通じ、科学と自然の関係を楽しみながら学べる場を創出します。

施策： 25 ワークショップスペースの整備
26 銅の多面性を学ぶワークショップ

副産物活用の歴史から“環境・循環型技術”を学ぶ



鉱山は資源を採掘する場であると同時に、副産物の活用や環境保全の取り組みが行われてきた場所です。これまでの環境保全への取り組みを取り上げるほか、銅の製錬過程で生まれたカラミを、煉瓦や建築資材として再利用した技術は、持続可能な社会を考える上での重要な先駆例であり、現代のリサイクル技術や資源循環の概念と結びつけることで、産業遺構の価値を未来へとつなげる意識を醸成します。

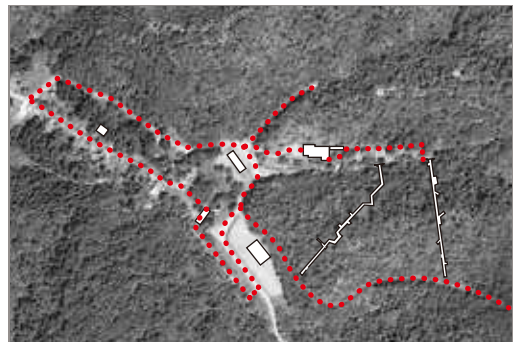
施策： 27 世界のカラミ常設展示

【概要版】 尾小屋鉱山資料館を核とした周辺持続活性化構想（案）

整備・活用の考え方：尾小屋鉱山跡周辺

—想定される取り組みやアイデア—

尾小屋鉱山遺構全体



「(仮称) 尾小屋マインパーク」の一体的な整備

資料館を核とした尾小屋鉱山跡周辺を「(仮称) 尾小屋マインパーク」として一体的に整備します。遺構を巡る回遊ルートの確保や景観を楽しめる展望施設の設置、解説パネルやAR・音声ガイドの導入により、歴史的価値をわかりやすく伝え、駐車場も整備して、訪れる人々が快適に楽しめる環境を整えます。地域の魅力を発信する場としての機能を強化します。

施策： 01 遺構群をつなぐ周遊アクセスルートの整備 04 鉱山遺構 AR/ オーディオガイド
02 ビューポイントと休憩設備の設置 05 駐車場・乗降場所の整備
03 鉱山まち案内（解説パネル）の設置

マインロード：五感で鉱山のリアルを感じる体験の中核



坑道内の環境整備

かつての坑道が持つリアルな魅力を最大限に活かし、安全かつ持続可能な体験空間を提供するため、マインロードの改修を実施します。支保工の補強や必要に応じた最新技術による安全対策を施し、坑内設備の環境を最適化。また、省エネルギーで雰囲気を損なわない LED 照明の導入や展示の刷新により、没入感のある坑道体験を実現します。

施策： 28 坑内の環境整備
29 照明・展示の刷新



臨場感あふれる“没入体験”で歴史を追体験する

訪問者が当時の鉱夫になりきり、産業遺構のリアリティをより深く感じさせる工夫をします。トロッコ乗車ステーションを整備し、坑道を駆け抜ける迫力のある体験を整備。また、音声ガイドや効果音を活用した徒歩探索や、鉱夫の衣装を着てのなりきり体験など、五感で楽しめる演出を強化。没入感のある体験型観光を提供し、産業遺構の魅力をより身近に感じられる場を創出します。

施策： 30 トロッコ乗車ステーションの整備
31 没入体験の提供
32 鉱山作業員なりきり体験の導入



坑道空間の新しい活用

坑道の独特な環境を多目的に活かして新たな観光資源の創出を目指し、地域の食・観光・文化を融合した体験型コンテンツを展開します。坑道内の安定した温度・湿度を活かし、地元の醸造所と連携して熟成した日本酒等のテイastingや、暗闇とひんやりとした空間を活かした真夏の肝試しをはじめとした季節性のあるイベントなど、非日常的な没入体験を提供します。

施策： 33 低温区画を利用した熟成
34 季節性イベントへの活用

尾小屋鉄道広場（現第5駐車場）：鉱山を支えた「産業の動脈」を知る



尾小屋鉄道遺構の移転・動態展示機能強化

安定した地盤と空間を確保し、安全性とメンテナンスの持続性を確保し、訪問者やボランティアにとっても快適な空間を実現します。残されている尾小屋鉄道遺構や車両を活かすことで、尾小屋らしさあふれる動態展示環境を実現し、鉱山のまちと市街を結ぶ路線の景色と、沿線の暮らしの移り変わりを伝えます。団体などによる屋外での活動スペースとしても活用を図ります。

施策： 35 尾小屋鉄道遺構の展示場を整備

カラミアート回廊：アートを通じて暮らしの記憶に想いを馳せる



カラミ遺構・まちなみ全体の学術調査

カラミ遺構とまちなみ全体の再生に向け、考古学、建築史、鉱山史など多岐にわたる専門家チームによる学術調査を実施します。調査・分析結果は将来的に Web 公開も視野に入れ、学術研究だけでなく、教育、観光、地域振興への活用・展開を目指します。

施策： 36 専門家チームによる現地調査 39 過去のまちなみの可視化
37 デジタル測量と GIS データベース構築
38 カラミの物質科学的分析



現代アートによる産業遺構の再生

訪問者と遺構の間に現代アートを通訳者として置くことで、残された遺構の物語を引き出します。例えば、デジタルアートやインスタレーションを用いて鉱山遺構に新たな表情を生み出したり、歴史的景観をキャンパスに、プロジェクションマッピングやインタラクティブな演出で過去の風景を再現して“時間のレイヤー”を重ねるなど。現代アーティストとのコラボによるインスタレーションで、歴史と現代アートが交錯する新たな体験を創出します。

施策： 40 アーティスト・イン・レジデンスプログラムの実施 43 アートギャラリーの整備
41 アートを用いた誘客イベントの実施
42 ライトアップ等カラミ遺構のインフラ整備

OGOYA BASE（現ポッポ汽車展示館）：地域をつなぐコミュニティ・ハブ



周辺自然の魅力を引き出すアウトドア活動拠点の整備

大倉岳高原スキー場などの周辺の関連区域と鉱山遺構のある中核区域とをつなぎ、地域の魅力を最大限に引き出すハブとして現ポッポ汽車展示館の場を活かします。キャンプサイトなどアウトドア活動が楽しめる自然体験の場として位置づけるとともに、地元の生産者や店舗等と連携し、マーケットやフードトラック等の出店を目指すことで、訪れるすべての人々が自然、地域、そして新たな発見につながる場を創出します。

施策： 44 アウトドア体験エリアの整備
45 キャンプイベントの開催

関連区域（西尾地区）



自然と調和した癒し体験の提供

関連区域の豊かな自然を活かし、訪問者が自然の中で心身をリフレッシュできるような仕組みを設計します。大倉岳高原スキー場の山頂や森林の中でのサウナ体験や、地元の湧水を使ったコーヒープレイクなど、ゆったりとした時間を過ごすしながら、自然と一体化する感覚を得られる場を整備し、訪問者が「地球の大きな営みの中にいる自分」を静かに見つめる機会を提供し、自然への敬意と共存の意識を育みます。

施策： 46 マインドフルネス体験プログラムの実施



自然を“冒険”する環境の整備

関連区域の雄大な地形ややまなみを直に体感し、地球のスケールの大きさが想像できる体験を提供します。大倉岳高原の山頂へ登るトレッキングを通じて、日本海まで一望する景色を楽しむことができるほか、訪問者が自然の偉大さを身体全体で感じられる環境を整えます。

施策： 47 トレッキングルートの整備検討